

なにやってんだよ!

ネットワーク管理者・池田の

第14回 ダウンロードの開始には少しの辛抱が大切

ファイルのダウンロードを開始してもなかなか反応がないときには、マウスボタンを押しそこねたかと思い、すぐにもう1回押したくなるものだ。しかし、そんなときには反応が返ってくるまでもうちょっと待ったほうがいい。あまりに気が短いと、他人に迷惑をかけるどころか自分も損してしまう。

プロキシを使う人が増えてきた

このコーナーでも「プロキシサーバーを使おう」と呼びかけたことがある(96年8月号)。プロキシサーバーを使えばインターネット全体にも負担がかからないし、ダウンロードの時間も短くなるのだから使わない手はない。個人ではあいかかわらず設定してくれない御仁も多いのだが、会社が専用線をつながっている方々はファイアーウォールがある関係も手伝って、プロキシの設定をする人が多くなってきているようだ。

これは公開サーバーの管理者ならログを見て分かることだ。プロキシサーバーを使っているユーザーがアクセスすると、サーバーのログには、個々のパソコンからのアクセスではなく、プロキシサーバーからのアクセスと記録される。

アクセスが2回連続している

こうしたアクセスパターンがあるのに気付いてから、サーバーであるUNIXでps(Process Status)コマンドで見てみると、なぜか1台のプロキシサーバーから同時に同じファイルをダウンロードしているのに気が付いた。なぜ同時に同じファイルをダウンロードしているのだろうか。

私も続けてダウンロードするときはある。たとえば、うまくダウンロードできずにファイルが壊れていて、もう1回ダウンロードしなければならないときだ。しかし、それにしても同じファイルを同時にダウンロードする必要性は感じたこともない。

一つ思い当たるのは、ダウンロードのダイアログがな

か表示されず、マウスボタンを押しそこねたかと思い込み、もう1回押してしまうことだ。しかし、2回連続したアクセスがサーバーに記録されているということは、サーバーにはダウンロード要求が確かに届いており、ファイルも送り出しているということである。

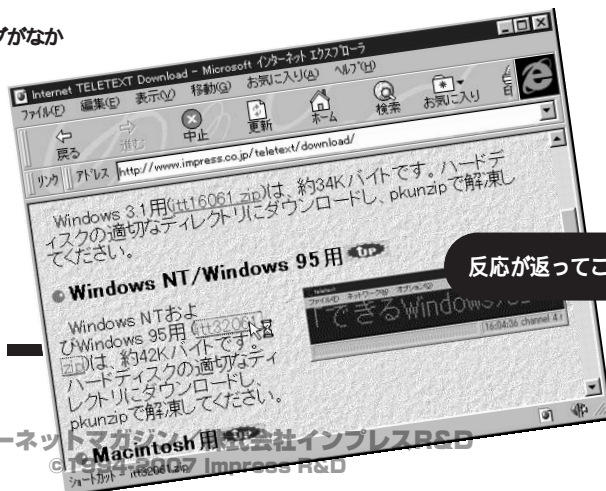
ほんのちょっとした辛抱が大切

プロキシサーバーを利用している場合、目的のファイルがキャッシュされていないときは、プロキシサーバーがおもとからダウンロードしながらキャッシングしつつ、こっちにもデータを送ってくる。プロキシを利用しない場合に比べて、途中の処理がはさまっているのでどう考えてもプロキシなしと比べて速いはずがなく、転送が始まるまでのタイムラグは思ったより大きい。特に、FTPの場合はログインするという手順があるからだ。

ネットワークが混雑している時間帯は、空いている時間帯に比べてダウンロード先のサーバーの反応が鈍い。こんな場合に少しくらい反応が返ってこないということで、思わず何回もクリックしてしまう気持ちも分からないわけではない。

すぐにもう1回クリックするのではなく、もうちょっとだけこらえて、少しだけ待つことが重要だ。せっかくだらなくクリックしてデータの転送が始まろうとしているときに、もう1回クリックしたのでは、もう1つダウンロードすることにならないだろうか? インターネット全体に負荷がかかり、他人に迷惑をかけているのは言うまでもないが、自分も28.8Kbpsの回線上で同時に2人でアクセスしているのと同じ状況になってしまう。つまり1人当たり14.4Kbpsの転送速度になってしまう。電話代も余計にかかり、プロバイダーを儲けさせることにもなる。

なにごとにつけてもちょっとした辛抱が、福をもたらすのである。



反応が返ってこなくても、ちょっと待とう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp